

◆企画名	<u>KU コアラ特集本紹介～大学生のための防災講座コラボレーション～</u>
日程	<u>2023年12月5日(火)～22日(金)</u>
場所	<u>千里山キャンパス総合図書館 2階開架閲覧室、各種 SNS (Instagram・X)</u>
参加者数	<u>7名 (ピア・サポーター2名、研修生5名)</u>

目 的

総合図書館での特集本展示及び KU コアラの SNS による本紹介をきっかけとし、大学生の防災への意識を高めること。また、防災に関する本の特集を組むことで、閲覧者の視野を広げ、防災をより身近に感じてもらうだけでなく、本への興味関心を高めることを目的とする。KU コアラの活動紹介も併せて行い、新たなメンバーの獲得に繋げる。

内 容

- ・防災本特集展示 (千里山キャンパス総合図書館 2階開架閲覧室)
期間：12月5日(火)～22日(金)
KU コアラメンバーが選書した防災に関する図書 9冊を展示した。展示の際には、本の表紙にタイトル、紹介文を記載した紙を添えた。
また、これまで KU コアラが実施した企画の紹介及び「Reading party (12月8日(金)実施)」のポスター、「大学生のための防災講座」のポスター、KU コアラの Instagram の宣伝ポスターも掲示した。
また、Instagram 及び X の両方で、総合図書館での特集本展示会場の様子を紹介した。
- ・KU コアラ SNS での本紹介
期間中、KU コアラの Instagram で、選書した本を 1日 1～2冊紹介した。

効 果

- ・一般学生の防災への意識を高めることができたか。
Instagram にて特集本展示の様子や、「KU コアラおすすめ！防災書籍～Part〇～」※という形で、本をテキスト上で紹介した。しかしながら、各投稿に対する「いいね」が 1～2件と、ほとんど反応がなかった。そのため、一般学生の防災への意識を高めることはあまりできなかったのではないかとと思われる。また X では、閲覧者が気に留めるような写真や文章表現ができなかったため、インプレッション数※2 が 22、エンゲージメント※3 が 3 とかなり低くなってしまった。

※1 〇には「1,2,3」のように紹介する順番に数字を記入した。

※2 どれだけのユーザーにこの投稿が表示されたかを示す数値

※3 その投稿を見て、いいね、リポスト、投稿の詳細の閲覧など、何かしらの行動をとったことを示す値

- ・一般学生の本への興味関心を高めることができたか。
本企画ではアンケートを実施していないため、どれほど一般学生の意識に訴えかけることができたかを正確に測ることはできない。
しかしながら、KU コアラのメンバーの中には、この企画の準備を進める中で新しいジャンルに興味をわいたという者もいた。そういった面では、興味関心を高めることはできたといえる。

改 善 点

- ・そもそも特集本展示が認知されていないのではないか。
今回は、準備期間が短かったため、広報ポスターを準備することができなかった。次回から可能であれば、従来の掲示場以外にも広報ポスターを設置したい。例えば、図書館外の凜風館 1階のボランティアセンター前にも広報ポスターを掲示することを希望する。この場所に設置することで、学生ラウンジを利用する多くの学生の目に留まることを期待する。また、KU コアラの SNS (Instagram・X) でも宣伝を行ったが、認知度が低いために広報の効果があまり得られていない。KU コアラの紹介・活動の様子を投稿や、関西大学の一般学生のアカウントを積極的にフォローしていくことで、KU コアラの認知度向上に努めたい。
KU コアラのメンバーが展示エリアを確認しに行った限りでは、貸し出し中になっている本がなかった。比較的読みやすい本を選んだが、一般学生に魅力を伝えることができなかった。

- ・準備期間が短かったため、役割分担が不十分であった。
急遽決まった企画であったため、役割分担が不明確であった。そのため、メンバー間の作業量に差が生まれてしまった。今後、同様の企画を実施する際は、スケジュール調整を入念に行い、無理のない実施計画をつくる。
- ・Instagramでの投稿を毎日実施することができなかった。
役割分担に偏りがあり、投稿作業を1人で担当した。そのため、作業量が多く毎日投稿をすることが難しかった。メンバー間のコミュニケーション不足が原因であると考えられるため、今後は密にコミュニケーションをとり、投稿作業は2人以上で担当する。
- ・新メンバーの獲得ができなかった。
新たなデザインのKUコア紹介ポスターやInstagramの紹介ポスターを設置したが、メンバーの獲得やInstagramのフォロワーの増加に繋げることはできなかった。
- ・フィードバックを得ることの困難さ
特集本展示の参加者は図書館利用者の内、本展示に目を留めてくださった方である。参加者の人数を特定することは難しく、参加者の感想を募ることも難しい。参加者への効果を図るために、次回以降は企画に関する質問に対し、シールを貼ってもらう形式で回答を得るアンケート総合図書館内に設置することを検討する。

感想

- ・本企画を通じて、普段読まない分野の本に触れることができ、良い経験となった。
- ・紹介文を書く際に、短文でその本の内容を伝える必要があったので、苦労した。しかし、何冊か書いていくうちに要約するコツを掴めた。
- ・短期間で企画準備を進めることとなり、さまざまな方面の助けを借りながら実施した。改めて、活動を支援してくださる方々の存在の大きさを感じることができた。

